

スクールカウンセラー便り

05-8号

大社高校

R6. 1

スクールカウンセラー 小林りょうすけ

ごあいさつ

みなさん、こんにちは。スクールカウンセラー小林です。本年もよろしくお願い申し上げます。皆さん、辰年をいかがお過ごしでしょうか。小林はといえば、令和がもう6年目という事実を前に、言葉を失っています。

さてさて、冬本番です。今年も「健康第一・ガッツ第二」でいきましょう！！



↑今年の主役と中日ファンの小林↑

1月、2月の来校予定日

1月22日(月) 午後
1月29日(月) 午後
2月 5日(月) 午後
2月19日(月) 午後



相談の受け付け

生徒のみなさん、保護者の皆さま。些細に思えることこそ重要だったりします。何かありましたら、遠慮なくお話に来てください。申し込みは保健室までお願いいたします。

スクールカウンセラー小林のひとりごと

「それでも人生にイエスと言う」

私たちは、困難な状況に立たされ、何もできず、ただただつらく、何もかも投げ出したくなると「こんな人生に何の意味があるんだ？」と考えたくなる。そんなときフランクは、私たちにこう声をかけるだろう。

「あなたが人生の意味を問うのではなく、あなた自身が人生の意味を問われているのだ」と。

精神科医フランク(1905~1997)は、第2次世界大戦下、ナチスの強制収容所を生き抜いた人だ。

その時の体験をもとに書かれた「夜と霧」は世界中でベストセラーになった。

続けて彼はこう言うだろう。

「誰かがあなたを待っている。何かがあなたを待っている。」と。

家族に会うことや、この悲惨で過酷な状況を後世に伝えることが、当時のフランクが見つけた人生の意味であった。

だからこそ彼は強制収容所を生きて出なければならず、だからこそ生きて出ることができた。

今さら、自分の方が人生の意味を問われていると言われても戸惑うが、フランクの言葉を信じ、自分を待っている何かとやらがあるのなら、それを探すためにでも生きてみますか。